

高齢者の一人ボッチをなくそう！
最低保障年金制度の実現

あらくさ

年金者組合ニュース
愛川年金者の会
発行責任者 勝又 莊蔵
愛川町中津75-2 Tel.286-1035

歩こう会11月例会

箱根湯本日帰り温泉を楽しむ

「二年の疲れを癒す」と言うことで、今回は箱根湯本にある天成園日帰り温泉に行きました。小春日和の中、遅めの9時に愛川町役場を出発。今回の参加者は23人でカミコウの中型バスを利用。大型と変わらない居住性で快適。途中トイレ休憩をはさみながら、11時に天成園に到着。受け付けを済ませ、入浴開始。足湯に入る人もいます。

7階にある男性用風呂は露天風呂の湯舟が3か所あり入浴している人も少なくゆったりと浸かる。湯温も40℃位で熱くもなく丁度よい。周りの山々は紅葉が最盛期を迎えている。太陽の光を浴びて一層綺麗に見える。気分が良く40分位入浴を楽しんだ後2階の昼食会場へ。私達専用の部屋で広く、ゆったりと食事が出来る。そう。



箱根湯本天成園庭園にて

既に10人位の方々がおしゃべりしながら食べ始めています。昼間から写真にあるように「宴会料理」と豪華である。昼食後、私は再び風呂へ。



昼食宴会料理

箱根湯本駅迄行かれた人、庭園にある2か所の滝、神社、池等を楽しめる散策路に行く人、ロビーで買い物やおしゃべり等をそれぞれ楽しんで後、午後3時に旅館を後にしました。帰路の途中で「鈴廣」で買い物をし、「アツ」と言う間に愛川に午後6時前に到着しました。いつもとチョット違うゆったりとした旅でした。楽しんでいただけましたと勝手に思っています。ありがとうございます。来年も色々企画していきます。それまでお元気で過ごしてください。

萩原 剛

筆おもいサークル

成長を感じた作品展

大塚 里子

今年の中津公民館祭りは作品展はありません。それならば、自分たちで作品展をやるという事になりました。11月12日、中津公民館の第2会議室で、ホワイトボードを3台を使い盛大に？作品を展示しました。

今回はちよつと趣向を変えて、先生に添削していただいた作品とその後の作品を並べた。習字をはじめたときの作品と十数年を経た現在の作品を見比べたりして、上達の程が見て取れるようにビフォーアフター形式も取り入れました。それらを見て、「私達間違いなく上達している！」と思えました。先生も作品を見ながら丁寧に注意点を説明してくださいました。来年は「筆おもい」発足15年になります。継続は力なりという言葉

を信じ、先生のご指導をいただきながら、美文字を目指し、更に自分らしい文字が書けるよう努力したいと思えます。

上達した筆おもいの皆様



11月組織現勢

新入会員

ありませんでした

男性	48人
女性	146人
合計	194人
高齢者比率	1・6%
高齢者人口	12414人
(2025・1・1現在)	

山紫水明

資本主義の象徴ともいえるニューヨーク市政を社会主義者が率いることとなりま

した。その名はゾーラ・マムダニ氏36歳と報じられました。物価高が続くニューヨーク市で「生活のしやすさ」をスローガンに「バスや保育無料化」「家賃値上げの凍結」など生活に結び付いた政策を掲げ富裕層や大企業への課税強化をうったえたそうです。日本では1960年代から1970年代にかけて京都には嵯峨川知事が「15の春は泣かせない」をキャッチフレーズに長期間京都府政を牽引しました。続いて東京都には美濃部さんが大阪では黒田さんそして神奈川には長洲知事が誕生しました。錚々たるメンバーが並び立ちました。現在の日本は軍事費1%から2%へ、他方年金減額、医療費の4兆円の削減。これでは国民は立つ瀬がありません。

(珠)

文芸欄

『俳句』

作者名

聖夜待つ 樅は真つ直ぐ 天界へ 大野 里詩
 水彩の 絵の具の匂い 秋深む 萩田美智子
 いく道の 人せい模様 秋惜しむ 山口とみえ
 コスモスの 花言葉は ” 平和 ” 祈る停戦 廣井瑞枝
 湯気のなか 望む山々 秋模様 萩原 剛
 秋色の 湖畔をめぐる 婆と孫 浅香 絹枝
 街角の 閉店セール 年の暮 田辺 弘己

『川柳』

作者名

大きくやみ 美人に戻る ながくい時間 大野 里詩
 赤飯とだんごを 買う桐一葉 浅香 絹枝
 恐いのは 物価高とクマ 恐怖です 萩田美智子
 米寿の祝 家族絵出の 食宴会 廣井瑞枝
 八十路過ぎ 皆優しく 秋惜しむ 山口 とみえ
 寒い朝 布団の 温み 抜けられぬ 田辺 弘己
 「そんなこと」 国民にとつては 大事です。 萩原 剛

『短歌』

作者名

大いなる 白菜の 尻輝きて 大野 里詩
 漬物石の ぐらぐら 座る
 五十年 立ちて 逢いたい 友がいる
 生きた証しを 語りあいたい 山口 とみえ

戦後八十年

昭和二十年八月十四日、
 当時七歳の私は母の実家
 へ盆の客として母と泊ま
 りに行きました。一里半
 ほどの道のりを歩く途中、
 松林に差し掛かると、大
 人たちが大粒の汗を吹き
 出し、赤松を数本伐り倒
 していました。(後に解つ
 たのですが「松根油」を
 作るため)。当時は「松
 から油を採り、飛行機を
 飛ばす」という話でした。
 母の家に一泊し、十五日
 正午、特別な放送がある
 と、ラジオの前にかしこ
 まり、「天皇陛下」のお
 言葉を聴く。古いラジオ
 のせいかよく聞き取れぬ
 箇所もありましたが、
 「耐え難きを耐え、忍び
 難きを忍び」の一節には、
 七歳の私にとりましても
 それからの私の生き方に
 も覚悟が湧きました。

ある日の出来事

浅香 絹枝

母との帰り道、昨日懸
 命に松を伐り倒しをして
 いた大人たちの姿はなく、
 古い松の幹だけが何本も
 庭の草取りを町の施設
 に依頼した。毎年頼んで
 いるので、安心しての作
 業のはずでした。4、5
 人の人達が来てくれました
 た。9月ごろのことです。
 今月に入ってから、まず
 最初菊の花が咲き出して
 いる頃だろうと見に行っ
 たら二か所の菊が見当た
 りません。何が起きたの
 かと考えたら、抜き取ら
 れていました。家の裏に
 回って植えて間もない明
 日葉と、最初からあつた
 茗荷がすべて抜き取られ
 ていました。作業の人た
 ちの仕業です。草と思っ
 てのことでしょう。茗荷
 は夫が大事にしていたも
 のです。私は悲しくて泣
 いてしまいました。町の
 施設に電話を入れ、経緯
 を話しましたが、通り一

横たわり戦死した兵士の
 ように見えました。(時)

裁判募金のお願い

片の挨拶で痛くも痒くも
 ないのでしよう。菊はま
 た植え直そうと鉢買つ
 てきました。茗荷は長男
 も大好きで、家に帰って
 くと自分で取ってきて
 は薬味にしていたので、
 びっくりすることですよ
 う。本当に悲しいこと
 でした。

編集後記

会員の皆様、今年一
 年如何な年でしたか？
 いろいろな出来事があつ
 たかと思ひます。いず
 れにせよ何とか生きて
 生活できたことにまず
 感謝です。
 あらくさも無事発行
 出来て良かったと思ひ
 ます。来年も今年同様
 に愛川年金者の会の活
 動が出来
 たらど
 応援よろ
 しくお願
 いします。

童謡を歌う会

からお知らせ

12月25日はオカリ
 ナ演奏を別途特別に行
 ないます。お楽しみに
 してください。

サークル活動日誌 (11月分)

童謡	13日	32名
卓球	27日	37名
筆おもい	7日	22名
	14日	21名
	21日	26名
	12日	13名
	26日	12名
カラオケ	4日	9名
	10日	14名
	17日	11名
麻雀	25日	8名
	7日	24名
	14日	24名
	21日	26名
	28日	26名
絵手紙	6日	4名
	20日	4名
めだか	4日	11名
	11日	10名
	18日	15名
SKD	2日	8名
	21日	10名
いなご担当者	5日	5名
吟詠	19日	5名
	26日	5名
役員会	28日	7名
仕分け	14日	8名
神奈川年金一揆	21日	1名
里芋収穫	29日	7名

2025年秋の年金学校

日時：12月12日(金) 午前10時より
 場所：平塚崇善公民館2階
 資料代：300円

餅つき大会とバザー

日時：12月23日(火) 10時より
 場所：農村改善センター

神奈川年金裁判

第2回口頭 弁論
 12月22日 10時30分
 東京高等裁判所